

開講年度	2022		
開講学期	前期		
科目名	航空法規（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	44	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機の整備従事者に必要な法規則等について知識を習得し、航空従事者学科試験「法規」合格を目指す。		
授業計画	航空機の整備従事者に必要な法規則等について航空関係法規及びヒューマンファクターについて授業を実施		
テキスト	新航空法規解説(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	前期		
科目名	航空力学（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	44	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機に作用する力や航空機の運動及び性能等について、空気力学を中心に考えその知識を習得する。 また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。		
授業計画	航空機に作用する力や航空機の運動及び性能等について、空気力学を中心に考えその知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「航空力学」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	前期		
科目名	機体システム（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機に用いられる各種システムの機能や取扱い等の知識を習得する。 また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。		
授業計画	航空機に用いられる各種システムについて、その機能や取扱い等の知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「航空機システム」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	前期		
科目名	機体構造（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	36	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機の構造について、その設計の意図、特徴、取扱い等の知識を習得する。 また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。		
授業計画	航空機の構造について、その設計の意図、特徴、取扱い等の知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「飛行機構造」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	前期		
科目名	航空機材料（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機に使用される各種材料の性質や取扱い等の知識を習得する。 また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。		
授業計画	航空機に使用される各種材料について、その性質や取扱い等の知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「航空機材料」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績 評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	前期		
科目名	航空計器（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	36	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機に装備される各種計器の構造、機能等の知識を習得する。 また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。		
授業計画	航空機に装備される各種計器の構造、機能等についての知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「航空計器」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績 評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	前期・後期		
科目名	電子装備品等（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	48	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機に装備される各種電子・電気機器の構造、機能等の知識を習得する。また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。		
授業計画	航空機に装備される各種電子・電気機器の構造、機能等についての知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「航空電子・電気の基礎」、「航空電子・電気装備」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	前期		
科目名	発動機ピストン（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	48	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機に装備されるピストン発動機の構造、機能、性能等についての知識を習得する。また、航空従事者学科試験「発動機」科目設問内容を理解し、合格を目指す。		
授業計画	航空機に装備されるピストン発動機について、その構造、機能、性能等についての知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「ピストン・エンジン」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	前期		
科目名	発動機プロペラ（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	24	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機に装備されるプロペラの構造、機能、取扱い等についての知識を習得する。また、航空従事者学科試験「発動機」科目設問内容を理解し、合格を目指す。		
授業計画	航空機に装備されるプロペラについて、その構造、機能、取扱い等についての知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「プロペラ」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	後期		
科目名	発動機タービン（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	タービン・エンジンの構造、機能、性能など基礎知識の習得を目標とし、航空経歴認定のため 学期末試験にて70点以上取得を目指す。		
授業計画	航空機に装備されるタービン発動機について、その構造、機能、性能等についての知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「タービン・エンジン」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	前期・後期		
科目名	基本技術(学科) (座学・専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	64	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機の整備、取扱いに必要な「基本的整備技術」の知識の習得を目標とする。 学期末試験にて60点以上取得を目指す。		
授業計画	航空機の整備、取扱いに必要な「基本的整備技術」についての知識を教授する。		
テキスト	「航空機の基本技術」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績 評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	1年後期・2年前期		
科目名	電気技術(学科) (座学・専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	112	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	電気に関する一般的な知識を習得。 第2種電気工事士 学科試験合格を目指す。		
授業計画	電気に関する一般的な知識を教授するとともに、第2種電気工事士の資格取得に必要な知識、技能を教授する。		
テキスト	第2種電気工事士 学科試験問題集(出版社刊行)		
試験／成績 評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	2年後期		
科目名	機械技術(学科) (座学・専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	機械工作に関する一般的な知識を習得。		
授業計画	機械工作に関する一般的な知識を教授するとともに、製造技術者に必要な知識、技能を教授する。		
テキスト	一般機械解説資料(出版社刊行)		
試験／成績 評価方法	小テストによる評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	前期・後期		
科目名	基本技術(実技) (専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	336	授業方法	実習
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	航空機の整備、取扱いに必要な「基本的整備技術」の知識、技能の習得。		
授業計画	航空機の整備、取扱いに必要な「基本的整備技術」についての知識、技能を教授する。		
テキスト	「航空機の基本技術」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績 評価方法	学期末試験による評価及び 課題製作物評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	1年後期・2年前期		
科目名	機体装備品(実技) (専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	140	授業方法	実習
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	特定の航空機を対象に、その構造、系統、装備品等並びに航空機全般にわたる取扱要領や整備要領を実践的に習得。知識と実技を総合的に深める。		
授業計画	航空機の構造、系統、装備品等並びに航空機の全般にわたる取扱要領や整備要領を実践的に教授し、知識と実技を総合的に深める。		
テキスト	教材となる飛行機の「サービスマニュアル」(飛行機メーカー)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	前期		
科目名	発動機ピストン(実技) (専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	実習
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	特定の発動機を対象に、全般にわたる構造、機能、性能、取扱要領や整備要領を実践的に習得。知識と実技を総合的に深める。		
授業計画	特定の発動機を対象に、全般にわたる構造、機能、性能、取扱要領、整備要領等を実践的に教授し、知識と実技を総合的に深める。		
テキスト	教材となる発動機の「メンテナンスマニュアル」(発動機メーカー)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	後期		
科目名	発動機タービン（実技・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	56	授業方法	実習
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	タービン発動機の構造、機能、取扱要領、整備要領等を実践的に習得し、知識と実技を総合的に深める。		
授業計画	タービン発動機の構造、機能、取扱要領、整備要領等を実践的に教授し、知識と実技を総合的に深める。		
テキスト	航空工学講座「タービン・エンジン」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行) 実習該当機材サービスマニュアル(メーカー刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	1年後期・2年前期		
科目名	電気技術(実技) (専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	84	授業方法	実習
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	電気に関する一般的な実技知識を教授するとともに、第2種電気工事士の資格取得に必要な知識、技能を習得。知識と実技を総合的に深める。第2種電気工事士の実技試験合格、資格取得をめざす。		
授業計画	電気に関する一般的な実技知識を教授するとともに、第2種電気工事士の資格取得に必要な知識、技能を教授する。		
テキスト	第2種電気工事士 実技試験問題集(出版社刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	前期・後期		
科目名	総合技術(実技・専門科目)		
必須選択	必須		
授業時数	224	授業方法	実習
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	航空機全般を対象として、製造技術、整備要領、修理要領等を実践的に習得。知識と実技を総合的に深める。		
授業計画	航空機全般を対象として、製造技術、整備要領、修理要領等を実践的に教授し、知識と実技を総合的に深める。		
テキスト	「航空機の基本技術」(日本航空技術協会 刊行) セスナ152サービスマニュアル(メーカー刊行)		
試験／成績 評価方法	小テスト、製作物評価		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	1年前期・後期 2年前期		
科目名	英語（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	84	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	<p>基礎的な文法や英語特有の文章構成を十分理解し、問題に慣れていくことを目的とする。</p> <p>読解、聴解のコツを活用し、短時間で問題に対応できることを目指し、合格及びスコアUPにつなげる。</p> <p>中級語彙およびレベルに適した文法力を適用し、自分の意見を客観的に論理的に伝えるスキルを身につける。</p>		
授業計画	<p>1年次: (レベル別に授業を実施)</p> <p>①各級に分かれた英検対策。</p> <p>②TOEIC及びTOEIC Bridge対策。</p> <p>③読解力・思考力育成。</p> <p>2年次: (レベル別に授業を実施)</p> <p>①各級に分かれた英検対策。</p> <p>②TOEIC及びTOEIC Bridge対策。</p> <p>③英語読解スキルを育成。論理的・客観的英文表現。</p> <p>④思考力育成。</p>		
テキスト	TOEIC対策テキスト、単語テキスト、英検準2級対策テキスト、準2単語テキスト 英検3級対策テキスト、3級単語テキスト(各出版社刊行版)		
試験／成績評価方法	学期末試験による点数及び平常点(授業態度などの評価)の総合評価		
その他	70%以上の出席および学期末試験で60点以上が必要		

開講年度	2022		
開講学期	1年後期・2年前期		
科目名	一般常識(SPI) (一般科目)		
必須選択	必須		
授業時数	56	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	基礎的な学力の向上及び企業が行う入社テストに対応した知識を習得。 SPIテキストの演習によりSPI形式の試験に対応する力を身につける。		
授業計画	基礎的な学力の向上及び企業が行う入社テストに対応した知識を教授する。		
テキスト	SPI 3テキスト(出版社刊行版)		
試験／成績 評価方法	学期末試験による評価		
その他	70%以上の出席および学期末試験で60点以上が必要		

開講年度	2022		
開講学期	前期・後期		
科目名	就職対策（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	112	授業方法	演習
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	社会人として必要なマナー、文書の作成、面接要領等について必要な知識を習得。		
授業計画	社会人として必要なマナー、文書の作成、面接要領等について教授する。		
テキスト	一般出版社刊行のマナー本、前年度以前の受験報告資料		
試験／成績 評価方法	課題提出、実面接による評価		
その他			

開講年度	2022		
開講学期	前期		
科目名	IT基礎（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	56	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	Microsoft Office機能を使いこなすために必要な知識を習得。		
授業計画	Microsoft Office機能を使いこなすために必要な知識を教授する。		
テキスト	講師作成のテキスト		
試験／成績 評価方法	課題作成、小テストによる総合評価		
その他	パソコンを使用しながら実践的に教授。 70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	後期		
科目名	グランドハンドリング（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	地上における航空機の取扱一般並びに航空機周辺作業に係る全般的な知識を習得。		
授業計画	地上における航空機の取扱一般並びに航空機周辺作業に係る全般的な知識を教授する。		
テキスト	航空機のグランドハンドリング（日本航空技術協会 刊行）		
試験／成績 評価方法	小テストによる評価		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	1年後期		
科目名	非破壊検査技術（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	56	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	電流、超音波、蛍光剤等を使用して行う非破壊検査技術に係る知識、技術を習得。 渦流探傷レベル1資格を目指す		
授業計画	電流、超音波、蛍光剤等を使用して行う非破壊検査技術に係る知識、技術を教授する。		
テキスト	渦流探傷テキスト(非破壊検査株刊行)		
試験／成績 評価方法	小テスト		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	後期		
科目名	安全・品質（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	健康管理、事故防止を考えながら安全衛生と品質管理の重要性について必要な知識を習得。		
授業計画	健康管理、事故防止を考えながら安全衛生と品質管理の重要性について学ぶ。		
テキスト	学校作成の安全・品質テキスト		
試験／成績 評価方法	受講レポート及び小テスト		
その他			

開講年度	2022		
開講学期	前期・後期		
科目名	課外授業（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	70	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	学校、社会のルールを認識し、協調性、自主性、連帯意識を養うなど 普段の授業で得にくいものを得る		
授業計画	オリエンテーション、球技大会、学園祭等、学生として参加が求められている 各種学校行事		
テキスト	各行事資料		
試験／成績 評価方法	出席確認による（評価は無し、球技大会等においては）		
その他			

開講年度	2022		
開講学期	後期		
科目名	英語（一般科目）		
必須選択	選択1		
授業時数	28	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	<p>実用英語検定並びにTOEICテストにおいて上位レベル到達に必要な知識を習得。 現有レベルより上位の英語検定資格合格を目指す。</p>		
授業計画	<p>実用英語検定並びにTOEICテストにおいて上位レベル到達に必要な知識を教授する。レベル別授業を行う。</p>		
テキスト	<p>TOEIC対策テキスト、単語テキスト、英検準2級対策テキスト、準2単語テキスト、英検3級対策テキスト、3級単語テキスト(各出版社刊行版)</p>		
試験／成績評価方法	<p>学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)</p>		
その他	<p>70%以上の出席が必要</p>		

開講年度	2022		
開講学期	後期		
科目名	一般教養（一般科目）		
必須選択	選択2		
授業時数	28	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	社会人として必要な一般教養に係る知識を習得。		
授業計画	社会人として必要な一般教養に係る知識を教授する。		
テキスト	SPIテキスト、一般教養にかかる一般資料		
試験／成績 評価方法	小テスト		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	後期		
科目名	IT応用（一般科目）		
必須選択	選択2		
授業時数	28	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	CAD機能に係る知識を習得。パソコンでCADを使用して初歩の図面を作成できること。		
授業計画	CAD機能に係る知識を教授する。		
テキスト	講師作成資料		
試験／成績 評価方法	小テスト、課題製作提出		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	後期		
科目名	航空英語（一般科目）		
必須選択	選択1		
授業時数	28	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	英文の航空機及びエンジンのマニュアルを読解する知識を習得。		
授業計画	英文の航空機及びエンジンのマニュアルを読解する知識を教授する。		
テキスト	これから学ぶ航空機整備英語マニュアル（日本航空技術協会 刊行）		
試験／成績 評価方法	小テスト		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2022		
開講学期	前期		
科目名	総合（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	専門科目授業を中心に、授業で理解できなかった部分をレビューし、積み残し無しで次のステップ(授業)に望めるようにする。		
授業計画	授業で理解できなかった部分をレビューし解説を行い、積み残し無しで次のステップ(授業)に望めるように教授する。		
テキスト	各教科テキスト		
試験／成績 評価方法	出席確認による(評価は無し)		
その他			